

免疫組織化学の新アプローチ

～多重染色試薬のご紹介～

日程 平成 27年 6月3日 (水)

時間 13:30～14:30 (質疑応答含む)

場所 遺伝子実験施設 2階 セミナー室

演者 株式会社パーキンエルマー・ジャパン **野村 守**
アプリケーションスペシャリスト

内容

OPALは、複数の同じ生物種の抗体で組織切片の同時多重染色が可能な免疫組織化学の新アプローチです。使用する抗体の選択肢を広げ、正確な細胞フェノタイピングが可能で、微弱シグナルの検出も可能となります。

マルチプレックス：一つの切片から複数のバイオマーカーを同時検出

単一動物由来抗体を複数使用：複数のマウスモノクローナル抗体を使った多重染色が可能

抗体の組み合わせに自由を

Single Specie Multiplexing

OPAL

単一動物由来抗体を複数使用可

独自の抗体除去技術により、これまで困難だったマウスモノクローナル抗体を複数使った多重染色が可能

使用する抗体の選択肢を広げ、正確な細胞フェノタイピングが可能

TSA Plusによるシグナル増幅

微弱シグナルの検出が可能

VectraあるいはNuanceとinFormを組み合わせたシステムでは、最大8種類のバイオマーカーの検出が可能となります。

上図の染色に用いた一次抗体
顕微鏡像はNuanceスペクトルカメラにて撮影

色	抗原 (標的)	由来動物
赤	CD8	マウス
緑	CD4	マウス
橙	CD20	マウス
紺	サイトケラチン AE1/AE3	マウス
黄	PD-L1	ウサギ
青	核 (DAPI)	

[お問い合わせ]

株式会社パーキンエルマー・ジャパン

担当: 山新田 (080-1029-1408)

参加希望の方は、先導生命科学研究支援センター・遺伝子実験施設 受付
(メール grc@ml.nagasaki-u.ac.jp 又は内線7190)までご連絡下さい。